

# 「株式会社 姫路シティFM21」

## 第 67 回 放送番組審議機関 審議会議事録

1. 開催日時 平成28年7月16日(土曜日) 午後1時30分～午後3時

2. 開催場所 イーグレひめじ地下2階 ミーティングルーム

### 3. 出席状況

1)委員総数 7名

2)出席委員数 7名

3)出席委員の氏名(敬称略、順不同)

岩田 稔恵	大井 義雄	大谷 昭仁	大野 幸一
岸田 直美	衣笠 愛之	宮本 節子	

4)欠席委員の氏名(敬称略、順不同)

なし

5)会社側出席者氏名

寺尾 雅晴	(専務取締役 放送局長)
石本 康二	(常務取締役 営業部長)
小幡 博	(営業企画課 課長)

### 4. 議題

#### 1) 事務局説明

- ・ 放送局長より挨拶

#### 2) 資料説明

- ① 平成28年3月～平成28年5月の取り組みについて
- ② 平成28年6月以降の取り組みについて
- ③ その他

#### 3) 試聴

- ① トライやるウイーク番組
  - ・ 放送日 2016年7月3日(日)午後4時～午後5時
- ② Dr.竹迫のミュージッククリニック
  - ・ 放送日 2016年7月10日(日)午後9時～午後9時30分

#### 4) 意見交換

##### 【試聴番組:トライやるウイーク番組について】

- A委員 トライやるウイークの番組は、事前練習は無いのか？  
局長 期間は5日間ある。初日は、ラジオ局の説明、最終的に「自分たちで番組を」という話をして、制作をしている。
- A委員 ただの雑談である。「学校の自慢」などしっかり誘導したほうがよいのではないか？局がコントロールするべきだ。
- 委員長 中身は中学生に任せているのか？  
局長 技術的な指導はしているが、中身についてはあまり口を出し過ぎると委縮し、自己規制が強くなる。
- B委員 3人とも放送部か？  
局長 違う。興味があるという動機である。  
課長 卓球部、美術部、部活無しだった。  
委員長 きっかけは？  
局長 受入期間を局が設定している。そのスケジュールにあう学校を受入れている。それを基に、学校内で希望をとり、人選をしている。希望者が多い場合は、選抜をしている。全く面識がないメンバー同士で、5日間で実施している。
- A委員 学校の生徒数がわからない子がいた。それぐらいは知っておくべきだ。  
委員長 公共の電波を使って話をするというのはなかなかできないものだ。  
副委員長 しゃべり方とマイクの使い方は良いと思った。特に女子がよかった。ただ、内容は雑談である。学校紹介などテーマを定めて、原稿を用意させるべきだ。トライやるウイークの成果を聴きたかった。トライやるウイークに来て、何を学んで、何が大変だったかという話題をしてほしかった。
- B委員 放送部が手をあげないという理由はあるのか？  
局長 実態として中学校に活動している放送部は少ない。放送委員会として、昼休みにBGMをかける程度のようなのだ。
- B委員 放送部に限れば、レベルは高くなるのではないか？  
副委員長 放送部でなくても、事前に準備をしておけばよい。  
局長 最終形でこの番組をつくっているが、ここに至るまでに生放送に3回程度出演している。その中では、学校紹介やトライやるウイークの紹介などを行っている。最後に何をやるか？ということは生徒も悩むところだが、自分たちで考えてもらうようにしている。
- B委員 担当はだれがしているのか？  
局長 メインは放送担当が行っている。各講義はそれぞれの担当者が行っている。
- B委員 事前訪問があると思うが、その時に理由を聞いたり仕事内容を説明して、覚悟をもってこさせている。意識を持ってくると思う。
- C委員 中学生について。観点を変えた話をしたい。中学生に対しては人権トークとして各学校3名ずつ来て議論を行う。その時は、課題を与えない。コーディネーターが誘導して発言させる。学習能力が高いので、課題を与えておけば良い物ができる。

B委員 大学生のインターンシップもあるが。  
局長 基本の流れは同じ。ただ最終形は異なる。  
委員長 積極的に取り入れた方が良いと思うが、負担が多いのが心配。  
局長 担当者が取られてしまうので、日常業務は停止してしまう。  
課長 行先によって意識がちがう。「食べ物屋なら何か食べられる」「美容院ならセットをしてもらえる」という選び方をする生徒もいる。  
FMゲンキには基本的に放送に興味がある人が来ている。  
委員長 受入を通して、放送局の親しみにつながれば良い。  
局長 受入の狙いはそこにある。生徒の出演した番組をみんなが聴いてくれることもあったようだ。トライやるを通してラジオを聴いてくれることがありがたい。  
A委員 生徒にとっては一生の思い出だとおもう。トライやるウイークの思い出は長く残る。

#### 【試聴番組:ミュージッククリニック】

副委員長 手馴れている。音楽のことも詳しい。楽しめる内容だった。  
局長 7月31日に行うライブも、本人がトークをしながら演奏をするというスタイルで予定している。  
課長 毎回テーマに沿った音楽と話題をチョイスしている。マニアックなものだけでなく、季節に合わせたメジャーなものを混ぜ合わせながら、放送している。  
副委員長 小話が多いので、聴いていて楽しい。  
A委員 安心して聴ける。  
副委員長 音楽をやっている人は、トークが面白い人が多い。大学生も、放送部よりジャズ研究会など音楽系サークルの方が、ライブ経験が豊富でトークが面白い場合がある。  
課長 スポンサーは出演者がみつけてくれている。次回のビーチボーイズ特集では、その分野に詳しい評論家がゲスト出演する予定である。

#### 【自由意見】

委員長 防災関連について、難しい事情が発生しているのか。  
局長 防災パーソナリティについては、強制力を伴わない形で運用している。社員については、姫路居る場合なら状況を見て出社・放送としている。  
継続的になると、日中はスタッフがいるので対応できるが、それ以外の時間においては対応が難しい。  
防災パーソナリティ等として6名と申し合わせをしているが、それぞれに本業があるため、時間・曜日によっては対応できない場合がある。  
案として役員をローテーションに含めることを考えている。  
委員長 4月～6月は問題なかったのか？  
局長 問題ない。

B委員  
局長 市からの委託でやっているわけではないのか？  
警報で出社する業務は、FMゲンキの自主判断でやっている。  
他のコミュニティFMでは行政が放送依頼を行い、その時点で放送業務を行うということもある。行政とつめた話をするのであれば、行政から依頼があった場合の経費負担をどうするのか？という問題はある。1-2日であれば耐えられるが、数週間となれば厳しい。

C委員  
局長 姫路市と防災協定を結ばれている中でマニュアルがあると思うが。  
どのレベルで放送を開始するか？というものではない。災害対策本部が判断をするという形である。姫路市の中でも警報がでたら連絡体制をとり、その後警戒体制があり、その次に災害対策本部・災害警戒本部があるとなっているが、それぞれに対しての行動はない。

C委員  
B委員 決めておくべきだ。  
経費負担も決めておくべきだ。スタッフもよく勉強している。応急手当普及員の資格を持っているものもいると聞いている。学校などへの研修を受託するというのもできるのではないか。消防署の方も話は上手だが、パーソナリティが指導するのもよいのではないか。

局長 資料にもあるが、先日は社内で普通救命講習を初めて実施した。これまでは消防局の原稿を読むだけだったものが、実際の経験を通して話すことができるようになる。防災に対しての研修にも参加しているので、姫路市に対してもPRになる。会社としても意欲がある限りは応援をしていく。

B委員  
課長 姫路市はスポンサーだと思うが、兵庫県はあるのか？予算は？  
兵庫県はおつきあいをしてくれているが、大きくはない。

D委員 FMゲンキが何のために放送しているのか？という意味で、防災に関する部分のレベルがどんどん上がっている。消防局の職員が出演している番組も楽しみにしている。何かあったときにはFMゲンキをちゃんと聞こうという行動につながっていくとよい。

A委員  
局長 発信元が身近なのが良い。  
県域放送局や全国ネットと同じことをしても仕方がない。

D委員 先日、バイパスが混んでいて、他のメンバーが遅れたことがあった。その話を別の友人にしたら「渋滞は何度もFMゲンキで言っていたよ」といっていた。  
情報の速さに関心した。

副委員長  
局長 今年度、兵庫県は防災に力を入れているのではないかと？  
今年の中播磨県民センター単独で防災リーダー講座を実施するようである。

副委員長  
局長 FMゲンキと加古川で移動する人のために連携はできないのか？  
認可の段階で周波数がかぶらないようにしている。

副委員長  
局長 防災の点では、問題だ。  
コミュニティ放送協会がカーナビメーカーと協議をしたことがある。ワンプッシュでコミュニティFMが受信できないかと相談を持ちかけたが、局の数が多すぎて対応できないという話だったようだ。

副委員長 県内の移動ルートにそって受信できるように考慮して欲しい。

- D委員 災害の時だけは何とかならないのか？  
C委員 周波数は決まっているので、同じ周波数を使うことはできない。  
局長 そもそも、市の全域を対象にするという制度ではない。1wから始まり、20wになっている。ただ、大きな災害がある中で、コミュニティFMは一定の役割を果たしていると評価されている。聴こえないエリアをなくすために、行政が設置する中継局に対して起債を認めるという制度はある。ただし、物を作ると維持費がかかる。
- B委員 コミュニティFM防災サミットのようなことはできないのか？  
局長 数年前に伊丹で開催している。
- B委員 兵庫県が力を入れているのであれば、協力を求められるのではないか。  
局長 公平性・平等性の観点から、市町村対象のコミュニティ放送局と県の連携というのは困難に思われる。兵庫県はコミュニティFMが多い県ではあるが、空白地域も多数ある。
- 副委員長 スマートフォンでは聴けるが、みんなが使えるわけではない。  
B委員 全県を網羅しないとイケないという考え方が間違っている。  
局長 県の担当者としては、県域放送局で対応できると考えているだろう。

#### 【事業報告等に関する意見】

午後3時、以上の報告・討議・検討を終了し、閉会した。

公表年月日 平成28年7月25日

公表内容 審議の概要

公表方法 事務所据え置き、ホームページ(<http://fmgenki.jp>)

自社放送内「FMゲンキからのお知らせ(平成28年7月24日午後4時30分)」

以上